

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Evaluation of QOL in Patients with Dyspeptic Symptoms Who Meet or Do Not Meet Rome IV Criteria

(機能性ディスぺプシア患者とディスぺプシア症状を有するが Rome IV 基準を満たさない患者での QOL の評価)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻

器官・代謝制御系

消化管疾患学 (指導教授 三輪 洋人)

氏 名 三重野 将敏

【背景と目的】機能性ディスぺプシア(functional dyspepsia; FD)患者の健康関連 QOL は傷害されていることが知られている。しかしながら、ディスぺプシア症状を有する患者においての健康関連 QOL は明らかにされていない。そこで今回我々は、ディスぺプシア症状を有し、外来を受診した患者のうち Rome IV 基準を用いて診断基準を満たす患者(FD 患者)と満たさない患者(non-FD 患者)、症状のない健常人での QOL を比較検討することと QOL に影響を与える因子を明らかにすることを目的とした。

【方法】本研究は当院および 8 つの関連施設で実施した多施設共同前向き観察研究である。2020 年 4 月から 2021 年 4 月までにディスぺプシア症状を訴えて外来を受診し、内視鏡検査等で器質的疾患を除外された患者 235 名と健常人 111 名を対象とした。また、non-FD 患者を 1) 期間のみを満たさない群(Group A), 2) 頻度のみを満たさない群(Group B), 3) 期間と頻度の両方を満たさない群(Group C)に細分化した。FD 患者、Group A、Group B、Group C、健常人の全ての群において臨床的特徴と GSRS score、HADS score、SF-8 を用いて比較検討を行った。

【結果】235 名の患者のうち、最終解析対象は 213 名であった。FD 患者が 126 名(59%)であり、non-FD 患者が 87 名(41%)であった。また、Group A は 17 名(20%)、Group B は 53 名(60%)、Group C は 17 名(20%)であった。GSRS total score は FD 患者と non-FD 患者のいずれも健常人に比して有意にスコアは高く($P<0.0001$)、FD 患者は non-FD 患者に比しても有意にスコアは高かった($P=0.012$)。さらに、GSRS total score は FD 患者では Group B と Group C に比して有意にスコアは高かったが($P=0.028, P=0.014$)、Group A とは統計学的差は認めなかった($P=0.085$)。

【結論】FD 患者と non-FD 患者は共に健常人に比して健康関連 QOL は傷害されていた。また、FD 患者においては non-FD 患者よりもさらに健康関連 QOL が傷害されていることが明らかとなった。しかしながら、non-FD 患者のうち症状発現頻度を満たす患者では FD 患者と健康関連 QOL は相違ない結果であり、ディスぺプシア症状を有する患者の QOL 低下には症状発現頻度が影響を与えている可能性が示唆された。